2. 多様な臨床活動

１）「臨床活動説明会」の実施

教職を目指すすべての学生が、特別支援教育の理念や基本的知識を身につけることのできる取り組みを進めるなかで、1 年生の必修授業（障害児の発達と教育）を受講した学生の中には、特別支援の対象となるニーズを持つ子に実際に接してみたいという気持ちを持っている学生もいる。特別支援教育の基本的な知識をよりいっそう深められ取り組みとして臨床活動への参加を全学の学生に促すという取り組みを平成 21 年 4 月 22 日に行った。

これまでは特別支援教育専攻の学生を中心に行ってきた臨床活動の中心となる教員や先輩学生がプレゼンテーションをパワーポイントや実際の教材など示しながら紹介した。

説明会の様子

臨床活動は、実施日である毎週（または隔週）の土曜日が拘束されるだけでなく、その前後でも準備や反省会などがあるので、そこから、臨床活動に直接結びついた学生は少なかったが、これを機会に様々なレベルのボランティアがあることなどを知り、参加学生の興味関心の継続には意義が深かったと考える。

２）各臨床活動の概要

第１こんぺいとう

実施場所：東京小児療育病院
実施日：毎月第２・第４土曜日の午後（13 時頃～17 時頃）
活動の概要：

知的障害のない自閉症スペクトラムを中心とする発達障害の小学生を対象としたソーシャルスキル・トレーニングのグループである。子どもたちは本活動で人とのより良いコミュニケーションの仕方や自分の気持ちのコントロールの仕方などを学んでいる。武蔵村山市にある東京小児療育病院で医師や心理職とともにこの取り組みは行っている。活動は、個別活動（じっくりタイム）と集団活動（いきいきタイム）からなっている。

大学院生・学部４年生・特別専攻科生がメインスタッフであるが、学部１年～３年生も子どもたちをマンツーマンで助ける“サポーター”として参加している。子どもは毎年 10 名程度、スタッフとサポーターを合せて学生は 20 名程度である。

学生には医師や心理の専門職とのチームアプローチを学ぶいい機会になっている。

F1 サークル

実施場所　葛飾区新小岩学び交流館等
実施日　原則第一、第三土曜日午後
活動の概要：

葛飾区を中心とする地域に住む学習障害児およびその周辺の子どもたちのソーシャルスキル・トレーニングを目的とした指導会である。会の主体は保護者であるが、本学の教員３名と千葉大学の教員１名が活動に協力している。

児童生徒は、全体活動のほか、4 つのグループ（算数・漢字、国語・コミュニケーション、ゲーム・社会性、思春期・青年期）に分かれて活動を行っている。学生は、大学教員のスーパーバイズのもと、全体活動、及び、ぞれぞれのグループ活動について指導内容を計画、実施し、評価を行っている。

むさしだいサークル

実施場所　都立武蔵台特別支援学校
実施日　原則第一、第三土曜日午前中
活動の概要：

都立武蔵台特別支援学校と共同の地域支援活動の取り組みで、同校の支援エリアに住む、小中学校等の特別な支援が必要な児童生徒を対象としている。児童生徒一人一人に対して担当する学生を決めて、学期ごとの個別指導計画、各回の個別指導計画を作成し、それに沿って指導を進めている。個別指導と小集団指導（生活年齢を基本単位）を行い、前者では個々の児童生徒のニーズに応じた学習指導等を、後者では社会性のスキルを高めるためのゲーム活動等を行いる。また、すべての児童生徒について、K-ABC 等の心理アセスメントを行って実態把握と課題分析を実施している。

小笠原研究室セラピー

実施場所：東京学芸大学　人文科学研究棟２号館
実施日：毎週土曜日　13 時から 18 時（ひとり、個別指導 30 分、集団指導 45 分）
活動の概要：

知的障害のある自閉症を中心とした発達障害児を対象としている。就学前の子どもから高校３年生までが毎年 30 名前後通ってきている。子ども達は、年齢と発達状況を考慮して３名から６名くらいの小集団に分けられ、例年６種類程度の集団活動を行う。それぞれの子どもたちは、集団活動

の前後で個別指導も受けている。

学生達は、1 年間を通じて、ひとりの子どもを担当しニーズに合わせた指導目標を立て、個別指導と集団指導を行っている。また、夏休みと春休みに千葉県の御宿で 2 泊 3 日の合宿を行っている。参加スタッフは、３，4 年生及び特別専攻科、大学院生、研究室を卒業した現職教員や心理職で、毎年 30 名前後である。

学習活動　ダンボ

実施場所：都立大塚ろう学校

実施日　：隔週土曜　９：３０～１３：００（指導時間１０：００～１１：３０）

活動の概要：

聴覚障害と発達障害を併せ持つ小学生を対象とした教育支援活動。NPO 大塚クラブと協力して学習支援のための個別指導と集団参加促進を目指した集団活動を実施している。平成 20 年度は子どもは 13 人参加しており、スタッフは学生が約 40 名（他大学の学生も参加している）のほかに、ろう学校や小学校、特別支援学校の教員も 15 名ほどスタッフとして参加している。学生スタッフは教員スタッフと一緒に指導計画を立てて、実施にあたってのスーパーバイズを受けている。

対象児に聴覚障害があるため、参加学生のほとんどが一年間で日常会話程度の手話コミュニケーション力が身についている。

臨床活動の様子